日本生殖医療心理カウセリング学会　第10回学術大会
2013.03.03　宮城

「不妊治療終了にあたっての心理的課題　ーメンタルサポートのための連携ー」

IVFなんばクリニック　橋本知子　北川尚子　森本義晴　伊藤啓二朗

発表要旨

・はじめに

不妊治療後の妊娠の問題は既に論じられており、また心理療法における終結の重要さは広く知られている。不妊治療専門施設からの妊娠による卒業の場合、身体的側面に医療者、患者さんの注目は集中し、妊娠そのものの喜びや不安が前面に表れるために、治療終了に伴う心理的課題は扱われにくい。

事例A　(46歳)

X-3年、Bｸﾘﾆｯｸにて治療開始(結婚6年目)　ﾀｲﾐﾝｸﾞ×4、IUI×6、IVF×3

X年4月　当院初診(初診時43歳) 着床障害検査希望にて来院

当院にてOPU計14回、ET計6回。

X＋3年6月卒業、12月　男児出生。

X＋4年9月　カウンセリング希望にてTEL。遺伝Coが対応。「凍結胚をどうしたらいいか迷っている。夫と話しあうが結論が出ない」とのことで相談希望。遺伝Coに特有の問題については話されなかったことから、心理Coの予約とした。

心理Coと治療中にPtと関わっていた遺伝Coとでカンファレンスを行い、遺伝Coが受けることが望ましいと判断した。遺伝Co後、あらためて心理Coの予約あり、再度Co間のカンファレンスを行った。心理Coに来談、同日凍結胚廃棄希望。治療終結。

考察

凍結胚の廃棄についての相談という主訴であったが、結果的には治療終結の課題が心理Coでは表現されていた。Co間のカンファレンスでその心理的課題に気付き、遺伝Coが第一の援助者として関わることで、終結課題を扱うことができたと考えている。

卒業後にあらためてCoを訪れて終結の心理作業を行える患者さんは実際少ないが、他職種と心理Coの連携によって心理的課題として理解を深めることで、直接心理Coを受けることが難しくても、有効なメンタルサポートが提供できると考えられる。